

令和2年度学校評価報告書

令和3年3月31日

北海道教育委員会教育長 様

北海道釧路湖陵高等学校長 遠藤孝一 印

次のとおり令和2年度の学校評価について報告します。

【全日制】

1 本年度の重点目標

- 1 全ての生徒に基礎・基本を確実に定着させ、高いレベルの学力を育成する。
- 2 生徒に身に付けさせたい資質・能力の実現に向け、全校体制で取り組む。
- 3 心身の鍛錬を通じ、自他を尊重するとともに社会に貢献しようとする、強固な精神力を育む。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】(全日制課程)

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<p>コロナ渦において、「学びの保障」に向けた研修を実施し授業改善を図った。今後、「GIGAスクール構想」に向けたICTの活用を中心とした教育実践に結びつける。</p> <p>実施時期や実施方法について創意工夫し、SSH・医進類型などの研究指定事業を初めとして、様々な取組が適切に実施され、授業改善及び教科横断的指導等から学力向上へと結びつけられている。</p> <p>他分掌との連携により、総合的な探究の時間の内容の充実に努める必要がある。</p>	<p>学習指導における「自己評価」はほぼ適切である。</p> <p>コロナ渦において、生徒の自主性に立脚した活動が難しい状況下ではあるが、充実した教育活動で生徒の充実感を高めて欲しい。</p> <p>今後も教科横断的指導を充実させ、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を推進し、更なる学力向上を図って欲しい。</p>
改善方策	カリキュラム・マネジメントによる教科横断的指導を発展させ、コンピテンス基盤型教育による学力向上を図り、指導と評価の一体化を充実させる取組を強化する。	
生徒指導	<p>あらゆる活動を通して主体性と協働性を身に付け、「こころ」の教育を推進し、共感的な人間関係の構築を図るとともに地域貢献に寄与することができた。</p> <p>SCの活用、いじめ防止等対策委員会を定期的に開催、人権教育・道徳教育の推進、教育相談的手法による生徒指導等により、自己肯定感や自己指導力を育成した。</p>	<p>生徒指導についての「自己評価」はほぼ適切である。生徒会や部活動を通じて個人と集団の調和を保ち、自律的かつ調和的な人材育成ができています。</p>
改善方策	道徳教育や人権教育を充実させ、高いレベルで生徒の主体性と協働性の育成を目指し、高い人間性を育成していく。	
進路指導	<p>コロナ渦における大学共通テストや総合型選抜の受験対応において、様々な受験方法の変化等へ適切に対応し、生徒・保護者の安心感を高める努力をした。</p> <p>進路指導に関わる業務や規程の見直しに着手するなど、情報整理を徹底し、教職員の共通理解を高めた。</p> <p>様々な進路希望に応じた3年間を見通したキャリア教育の全体計画の作成に着手した。</p> <p>コロナ渦における統一学校説明会等の進路関係行事の実施方法等の再検討が必要。</p>	<p>進路指導についての「自己評価」はほぼ適切である。進学実績は保護者・地域の期待に応えている。より一層の実績を積み上げて地域のリーダーとなり得る人材育成をしてほしい。</p>
改善方策	3年間を見通した組織的な進路指導を強化し、高大接続改革に関する積極的な情報提供を行う。	
健康安全指導	<p>特別な支援を必要とする生徒や不登校傾向のある生徒への対応に関する組織体制の充実を図ることができた。</p> <p>健康チェックシート等の活用や、校内の感染症対策用品の整備、消毒等の作業手順等について、状況に応じ適切に対応した。</p>	<p>健康安全指導についての「自己評価」はほぼ適切である。より一層、教育相談、生徒理解を進めてほしい。</p>
改善方策	個人情報保護に十分配慮しつつ、教員間での指導体制の充実を図り、生徒の自己肯定感や自己指導力を育成する。また、防災・減災への意識を高揚させる指導の充実を図る。	

【学校運営に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり	<p>経営方針や活動内容について、Webページ、学校説明会、中学校での説明会を通じて情報を提供したが、コロナウイルス感染対策の制約により、中学校や地域への周知には限界があった。制約下での周知方法を工夫する必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止のため、中高連携を進めることができなかった。</p>	<p>健康安全指導についての「自己評価」はほぼ適切である。より一層、教育相談、生徒理解を進めてほしい。</p>
改善方策	<p>コンプライアンスを徹底し教育公務員としての自覚を高める。Webページの工夫・改善やコロナ渦に対応した積極的な中学校訪問・学校説明会等を通じて本校の「良さ」「強み」を家庭・地域にPRする。中高の教員間連携を強化する。</p>	
組織運営	<p>学校評価、改善方策、教育計画、実施と検証を一体のものとすることで、組織的な取組を実現する必要がある。</p> <p>短期間ではあったが、精力的な取組で、令和4年度入学者教育課程を編成することができた。</p>	<p>保護者、地域との連携を深めることができている。保護者、地域の期待に応えるより一層の教育活動の充実を図ってほしい。</p>
改善方策	<p>部長主任会議を学校改善の中核に据え、計画的・定期的に改善策を検討し、保護者・地域との連携を深める。</p>	
教職員の資質向上	<p>感染防止対策を行いながらも、制約の中で取組を続けたり、研修に参加するなどの活動を行うことができた。校内においては、引き続き危機管理意識を高めていくとともに、地震等の大災害に対応する取組に着手する必要があるが高まっている。</p> <p>服務規律に対する自律的行動につながっている。</p> <p>教職員の働き方改革は、喫緊の課題である。十分な時間を確保することができなかったため、早急に業務の効率化と意識の改革を進める必要がある。</p>	<p>教職員の資質向上の「自己評価」はほぼ適切である。</p>
改善方策	<p>課題を明確にした研修会の充実、教育者としての意識の高揚を図る。</p>	
公表方法	<p>学校ホームページ</p>	

3 添付資料

- (1) 令和2年度学校評価 自己評価 全定各1部
- (2) 令和2年度学校評価 学校関係者（学校評議員）評価書
- (3) 令和2年度第2回学校評議員会議事録